

# 11 KASIM

## IN TURKEY

Natsumi Aoki

### はじめに

アクセスいただきありがとうございます🙏国際文化学科2年の青木夏海です。この報告書を書くのもあつという間に3回目となりました。イズミルでの生活が安定し始めて、今月はより日常らしい内容をお届けできそうです。

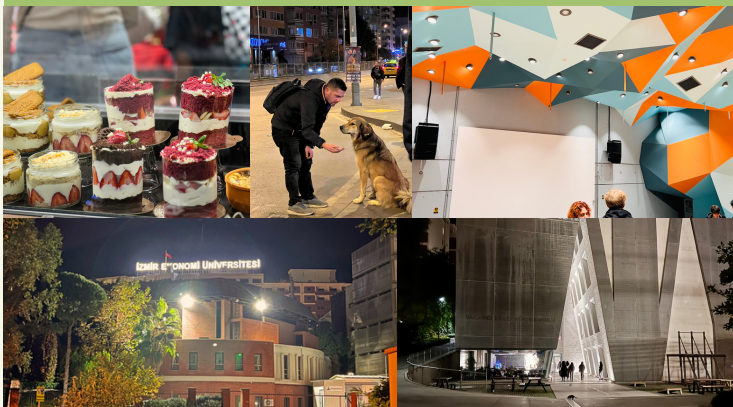


### 3か月過ごしてみて

改めて、イズミルとはどんな街なのか、これまで感じたことをまとめてみます。とっても住みやすい、心地の良い場所なんだということが伝わると嬉しいです。

### 素直で温和なトルコ人

常に笑顔で思いやりと助け合いの精神を持った人が多いと思います。どの国の留学生からも、トルコ人は優しいと留学生が口を揃えて言うくらいです。特に日本とトルコの歴史的な関係から（エルトゥールル号事件）、日本人は歓迎されます。例えばパン屋さんがおまけをくれたり、また、彼らは考えたことを包み隠さず素直に話します。日本だと、授業中に質問があるときは先生から与えられた時間に挙手をしたり授業後に個人的に聞いたりしますが、トルコ人は先生の話の最中に「質問いいですか」と聞く勇気があります。文句も直接みんなの前で言います。誰かの発言に対する反応が温かいので、的を外れた発言をすることも日本ほど怖くはありません。



### 世界三大料理の一つ

トルコでは外食文化が盛んで、カフェやレストランが無限にあります。以下、最近食べた中での私の好きな料理です。デザートは時々甘すぎるものがあるので覚悟したほうがいいです。食べ物の種類は挙げだしたらキリがないため、定期的においしかったものの紹介をこれからしていくつもりです。



#### Pilavi

パラパラしたお米に細切れの麺が入っています。写真は学食で食べたものです。120TL(約570円)で若干高いなと思いました。

**Tantuni Kebab**  
ケバブの一種で、パン中に牛肉とトマトが入っています。オリジナルなものはコットンオイル（綿実油？）を使っているらしいです。



#### 「無料の」ドーナツ

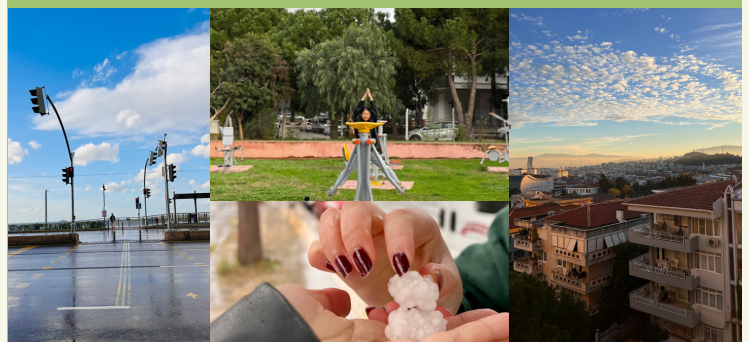
時々路上でキッチンカーがドーナツを配っています。なぜかはわかりません。ポンディングのようなもちもちをおなかいっぱい食べられて、一日を幸せな気持ちになります。

### カルチャーショックはあまりない

気持ちが落ち込むような文化的差異はないですが、「外国らしい」緩い文化、例えば、集合時間に全然人が集まらない、歩行者が信号を守らないなど、そのルーズさに驚かされることもしばしば。しかし、当然個人差があるので、これはあくまで傾向です。

### 山と海に囲まれた豊かな自然

トラム（路面電車）がエーゲ海を沿って走ります。車窓を見ているだけで心が浄化されるので大好きな景色です。しかし、イズミルの海は汚いので泳ぐのに適していません。泳ぐのであれば1時間程度西に進んだビーチに行きましょう。また、学校のすぐ裏には山がそびえ立っていて、ハイキングやロープウェイを楽しむことができます。あまり高い山ではないですが、急斜面でいい運動になります。ちなみに、運動をするなら公園がおすすめです。体操をするための器具が充実しています。





## 近代化が進むここ数年

自然にあふれる一方で、大きなモールや交通機関が増え続けています。したがって服や雑貨を購入する場所に困ることはありません。むしろ、最寄りの駅周辺のモール数軒で買うのか、数駅先のKonakという観光地に行くのか迷ってしまいます。トルコの交通機関は基本的に破格の値段で、学生用のカードを使えば距離に関係なくバスは5円だしメトロは30円です。



## トルコ語に対するウェルカム感

イズミル経済大学はグローバルな大学なため、医学を除くすべての授業が英語で行われますが、街の人々はトルコ語オンリーなことが多いです。だから必然的に私もレストランなどでトルコ語を頑張って話します。知っている簡単な単語を並べているだけなのですが、外国人がトルコ語を勉強していることを、みんなとても喜んでくれます。日本人にとってトルコ語は全くの異なる単語で構成されていますが、語順が日本語と同じかつ、シンプルな文法であるため学習のしやすい言語だと思います。

### レストランで使えるトルコ語

- Merhaba (メルハバ) 「こんにちは」
- Menü (メニュー) 「メニュー」 var (ヴァル) 「ある」 mı (ム)? 「か? (疑問詞)」
- Bu (ブ) 「この」 yemeği (イェメイ) 「料理を」 iki tane (イキ ターネ) 「2つ」 istiyorum. (イステイヨルム) 「欲しいです」
- Güzel (ギュゼル) 「いいね、美しい」



### 日常で使えるトルコ語

- Benim (ベニム) [私の] adım (アディム) [名前] Satsuki (さつき).
- Ben (ベン) [私は] Japon'um (ジャポナム) [日本人です].
- Ben öğrenciyim (オーランジーム) [学生です].
- Türkiye'yi (トルキエイ) [トルコ] severim (セヴィヨルム) [好きです].
- memnun oldum. memnun oldum. (メンヌン オルドゥム) [初めまして、お目にかかれて光栄です]

## 中間テスト

話を切り替えて、11月は秋学期授業の折り返し地点にあたるため、各授業で中間テストがありました。SUACだとレポート課題が比較的主流ですが、ここではほぼ全ての科目でテストが行われます。時々テストだけでなく、レポートを追加で課してくるものもありましたが…。この期間は週に何個も試験があって、他の学生より科目数の多い私からしたら地獄でした。そもそも、イズミル経済大学は近隣の大学よりテストや課題が異様に多いことで知られているようです。事前からコツコツと勉強してください。私はいまだに余裕を持った勉強というものができません。ぎりぎりの生活にならないようにすることを今後の目標にしたいものです。



## 言語系 (英語、中国語、トルコ語)

SUACの言語のテストと大差はないです。中国語に関して、漢字を知っている日本人はかなり有利です。ただ、問題のミスで質問文がトルコ語な部分があり、私は今何語のテストを受けているのだろうかとかオカシな気持ちになりました。

## 学部の授業 (国際貿易、言語学、文化人類学)

成績の30-40%を占めるため、本気で勉強しないと落ちます。選択問題が中心の科目もありますが、記述問題のほうが多かったです。国際貿易のクラスメイトは3年生までで同様の授業を受けてすでに単語や理論を理解していますが、私にとっては初めましてなことが多くかなり骨折りでした。

現時点で結果が返ってきている科目は8割以上とれています。ちゃんと自分なりに勉強して挑めば問題ないことが分かって安心しました。ただ、先生たちはエラスムスの学生への配慮なのか、おそらく実際よりも高い点数をつけてくれることもあります。35点の感触のテストが83点で帰ってきたときは仰天しました。授業への参加意欲への点数でしょうか。ちなみに単位には学期全体の点数として最低50点が必要です。シラバスに書いてある成績の点数配分をチェックして頑張りどころを見極めましょう。





## 休日

### ハロウィン

10月末ですが、イスラム圏にも関わらずハロウィンが盛り上がっていたため、私も2つのパーティに参加しました。渋谷とまではいかないものの、個性的な服装とメイクをして、爆音のDJに合わせて踊りました。酔っ払いに絡まれてちょっと嫌な思いをするのがパーティーの恒例です。しかし、そのたび親のようなかっこいい友人が私たちのことを守ってくれます。楽しむ場所で周りのことに気を配ることのできる、こんなスマートな人間に私ともなりたいと思われました。



### モスク

パキスタン人の友達が毎週金曜日のトルコ語の授業に毎回遅れて入室してくるので、なぜなのか聞いてみたら、イスラム教の礼拝の時間とかぶって遅れてしまうとのこと。その流れで今度一緒にモスクへ行かないかと誘ってもらいました。(もちろん授業外です。)ヒジャブは私たちのコーデに合わせて友達が色を選んで貸してくれました。ムスリムの方は髪の毛が隠れる分おしゃれに制限があるように思えますが、ヒジャブと洋服の色の組み合わせにこだわりがあることが、彼らと接しているうちにわかってきました。実際に訪れた場所は小さなモスクですが、細かな模様と色彩が施されていて、いかにここが権威のある場所なのかが見て取れます。このモスクは、一階のメインフロアに女性が入ることが禁じられており、2階の観覧席のような位置からお祈りをしました。私にはまだまだイスラムの教養がないので具体的なことを綴ることは難しいですが、宗教やその影響を学ぶことは面白いと思います。イスラム教徒としての親近の情が中東からの移民問題にも関係しているらしく、国際関係を学ぶ学生として、宗教問題にも今後目を向けたいと思います。



## 言語を学ぶこと

日本にいるときは、自分が間違った文法を使うことを恐れて何も話せない場面があったけれど、ここに来てからはもはや英語を話すほか意思疎通ができない場面が多いため、頭の中できれいに文章が作れなくても、どうか伝えようと頑張っています。その場面で相手がどんな言葉を使ったか、どんなリアクションをしたか、自分がなんて言ったのか、注意深く耳を傾けることで少しずつ日常で使えるボキャブラリーが増えてきたように感じます。

また、留学生を始めとして友達はみんな私より圧倒的に英語が上手ですが、彼らの多くも英語の上達を目的としてイズミルに来ているそうです。お互いに英語学習への理解があり、「それどういう意味？」が聞きやすい環境が素敵だと思っています。以前トルコ人の友達とこのような話をしていた時に、「ここに来てからあなたが英語を話すことで笑われたことがあるか？私たちはあなたが話す内容に興味があるのだから、間違った英語を恐れなくていいの。しかも第二言語なんだから、完璧じゃないのは当たり前じゃん。」と言われ、すっきりとした気持ちになりました。できないことに甘えるつもりはないですが、間違えてもいいとはっきりと言葉にしてもらえたことに勇気がもらえました。



## おわりに

毎月触れているイカメットについてですが、インターネット上での申請が終わり、面接待ちという状況です。住所を書く欄があったので、アパートの契約が落ち着いた今、漸く動き出すことができています。幸か不幸か、公証役場のアポイントメントがクリスマスの日に決まりました。居住許可証という名の、いいプレゼントがもらえることを祈ります。そして平行して、授業のプロジェクトの締め切りが近づいてきているので、そちらにまずは集中をしたいと思います。

